

第3回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定 検討委員会 資料

目次

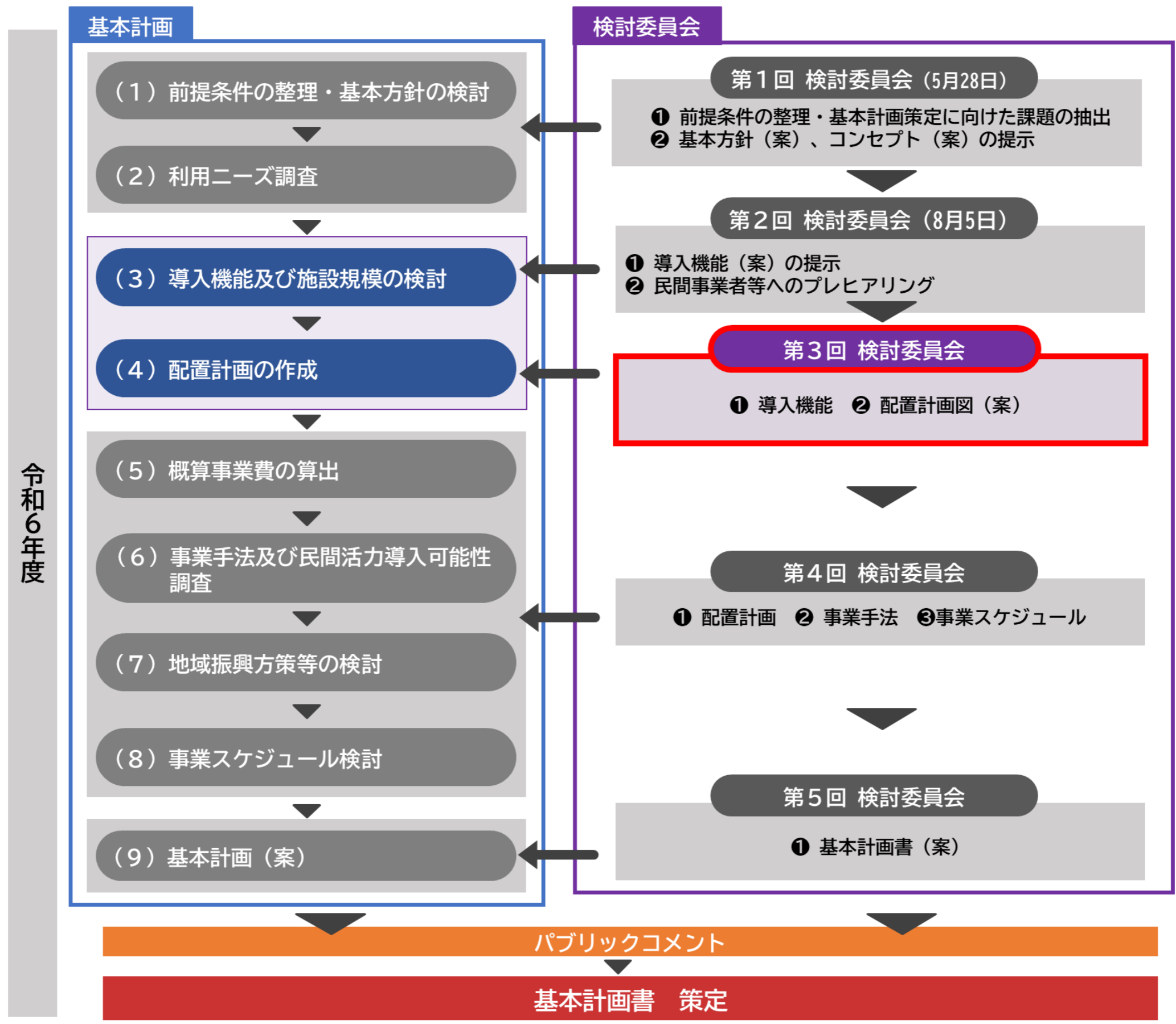
1. 第2回検討委員会の実施報告 P 1
2. 導入機能について P 4
3. 配置計画図（案）について P 9
4. 今後のスケジュール P 1 3

1. 第2回検討委員会の実施報告

1-1. 実施状況

令和6年8月5日（月）第2回検討委員会を実施。第2回検討委員会では、利用ニーズ調査結果、導入機能（案）、民間事業者等へのプレヒアリング結果を確認した。

第2回検討委員会を踏まえ、第3回検討委員会では「導入機能」の提示、「配置計画図（案）」の提示、確認をする。



1. 第2回検討委員会の実施報告

1-2. 導入機能（案）について

第2回検討委員会では、導入機能（案）について確認した。



上記の機能を補完する機能

交通結節 機能

- SIC近接の立地性を活かした機能
- 公共交通と連携する機能
- 観光周遊をするための機能
- 新たなモビリティと連携する機能

防災 機能

- 道路利用者と周辺住民等の発災時の防災機能

1. 第2回検討委員会の実施報告

1-3. 第2回検討委員会 議事要旨

第2回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定検討委員会

開催日時	令和6年8月5日（月） 午前15時00分 ～ 午前17時00分
開催場所	三芳町役場 301会議室
出席者委員	東京大学大学院 農学生命科学研究科 農学国際専攻 教授 八木信行 立正大学 地球環境学部 地理学科 教授 伊藤徹哉 飯能信用金庫 三芳支店 支店長 宮田佳律 三芳町商工会 有村誠 三芳町農業経営研究会 会長 田畑和樹 みよし野菜ブランド化推進研究会 浅沼克己 特定非営利活動法人れでいばーど 飯塚結花 三芳町長 林伊佐雄（オブザーバー） 東日本高速道路株式会社 サービスエリア・新事業本部 サービスエリア・新事業統括課 岡崎優（オブザーバー） （株）ネクスコ東日本エリアトラクト 事業計画部 中島豪誠（オブザーバー） 合計 10名 (表中敬称略)
議事	議事一 第1回（仮称）地域活性化発信交流拠点基本計画策定検討委員会実施報告 議事二 利用ニーズ調査結果について 議事三 導入機能（案）について

決定事項

- 検討委員会の内容について公開することを全会一致で承認された。
- **導入機能（案）が承認された。**

委員からいただいたご意見（抜粋）

【議事一】 利用ニーズ調査結果について

- 利用ニーズ調査結果より、休憩機能や飲食機能は共通して需要が高いことがわかった。
- 「世界農業遺産」等については、認知度が低いことが課題であり、拠点を利用したPRが必要となる。

【議事二】 導入機能（案）について

- 導入機能は、アンケート結果と整合性があるものが望ましく、三芳町が持つブランドイメージ（食・農・自然・子育て・農業遺産など）を明確にし、各コンテンツに統一感を持たせた整備の検討が望ましい。（地域振興機能、休憩機能、子育て支援機能）
- 拠点到整備する施設だけでなく、拠点外の資産（体験農園・自然林）を有効活用し連携する方針が良い。
- 現状は、拠点外周を囲うような雑木林の整備、もしくは拠点の一部に雑木林の整備を検討している。また周辺にある既存雑木林を利用した体験農園等も検討課題としている。
- 農業体験はプログラムを作成し一貫的な体験が可能なものとしたい。周辺の農地などとも連携して体験機能の充実を図りたい。
- 例えば、農業・里山体験機能として、落ち葉堆肥(耕す)→体験農園(育てる)→収穫体験(収穫)→農家レストラン(食べる)のように三芳町の伝統農法を交えることで学習の場としても活用でき農業の認知度や興味が高まる。
- この拠点では三芳町の農作物をPRする観点から、みよし野菜（三芳産の野菜）を中心に販売することが望ましい。
- 拠点で農作物を販売する方法として、日常利用に対しては安価な農作物、お土産利用に対してはブランド品や加工品を切り分けることで、ブランドの価値、付加価値の向上を図りたい。
- 休日だけでなく、平日も集客を見込むことができるコンテンツが望ましい。

以上



当日の様子

2. 導入機能について

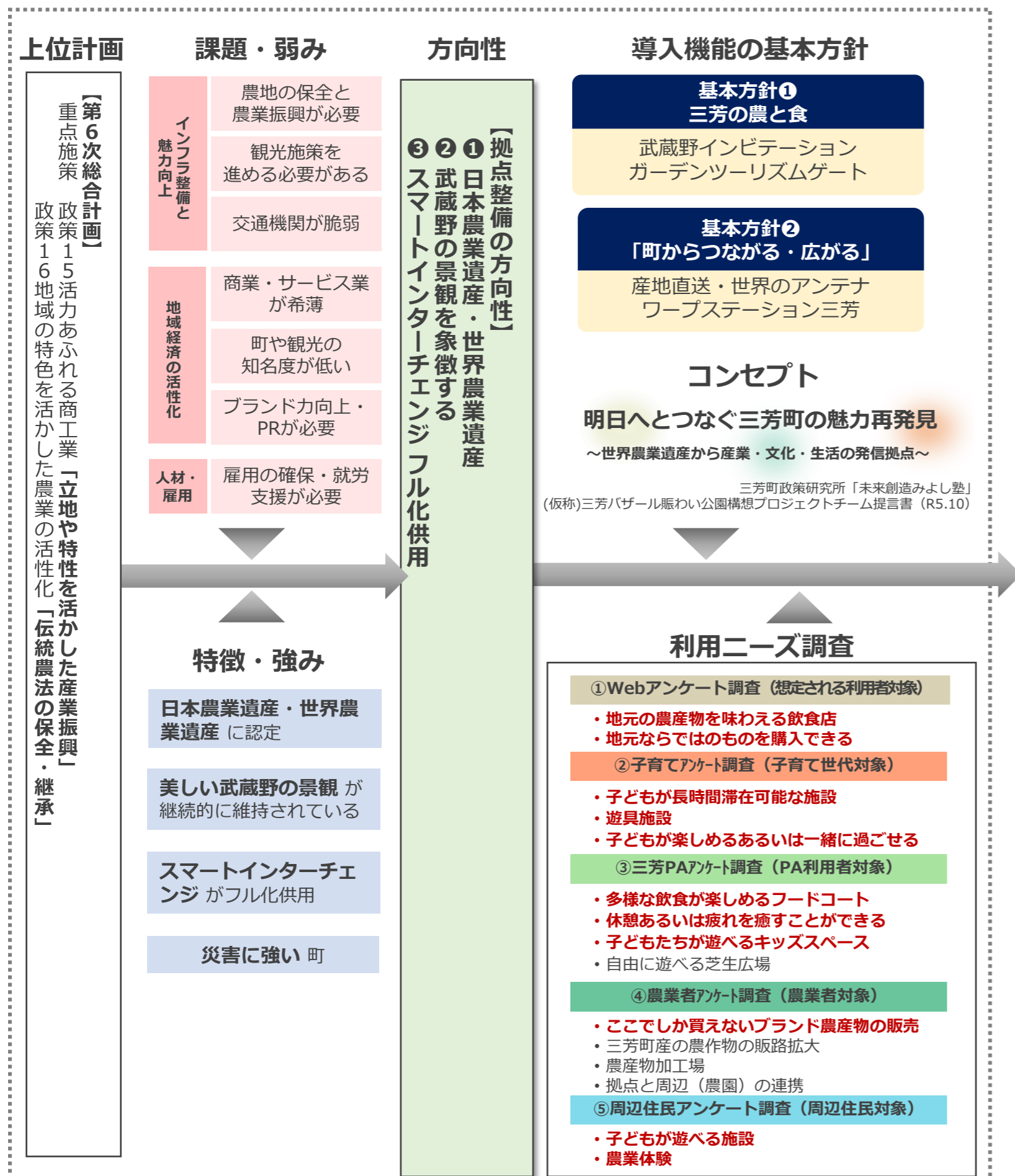
2-1. 第2回検討委員会に提示した導入機能（案）について

拠点のあり方	導入機能	各導入機能の具体的な施設	各施設のコンテンツ
地域活性化	地域振興 機能	会議室、多目的室、共有ロビー、展望台、ミュージアム インベーションセンター、世界遺産ライブラリー	・住民・農業者の活動拠点 ・世界農業遺産の研修拠点 ・産学融合拠点 ・キッズスペース ・大型複合型遊具 ・授乳室 ・オムツ交換台 ・赤ちゃん用液体ミルク販売機 ・野菜ビュッフェ(みよし野菜)
	子育て支援 機能	全天候型あそび場、プレーパーク、24時間ベビーコーナー	
	飲食 機能	農家レストラン	
情報発信	情報発信 機能	情報発信施設	・観光情報、地域情報案内 ・デジタルサイネージ交通情報等 ・情報コーナーラック ・道の駅ギフトカタログ
交流	農業・里山体験 機能	体験農園、雑木林	・一貫的な農業体験プログラム (耕す→育てる→収穫→食べる) ・植樹体験 ・世界農業遺産の紹介と体験 ・地元食材の販売 ・地元飲食店・販売店の紹介 ・世界農業遺産のアンテナショップ ・サウナ、足湯、コインシャワー ・道路利用者の癒しの場 ・イベントの開催
	物販・アテナショップ 機能	直売所、アンテナショップ	
	休憩 機能	24時間駐車場、24時間トイレ、温浴施設	
	レクリエーション 機能	せせらぎ水路、芝生広場、多目的半屋外空間（屋根あり）、多目的ステージ	
上記の機能を補完する機能	交通結節 機能	バス停留所、サイクルステーション	・シェアサイクル ・観光周遊 ・発災時に拠点に滞在していた人や 周辺住民に対応した防災備蓄の確保
	防災 機能	防災倉庫、非常用電源、災害用マンホールトイレ など	

2. 導入機能について

2-1. 導入機能

第2回検討委員会の内容を踏まえ、導入機能を以下のとおり整理する。



第1・2回検討委員会 内容

導入機能・施設の整理

本拠点では、道の駅に必要な3つの基本機能と、利用ニーズ調査から抽出した7つの機能を設定し、各導入施設を設定します。

【基本機能】

① 地域振興機能

「研修室」「農のミュージアム」「インビテーションセンター」「研究拠点(産学融合拠点)」で構成し、ここの活動等が町全体に人を呼び込み町の誇りとなって活性化するような場とします。

② 情報発信機能

「情報発信施設」において、道路利用者に町内や高速道路の必要情報はもちろん防災拠点として災害情報を提供し役立つ場とします。

③ 農業・里山体験機能

「体験農園」「雑木林」で構成し、「農(武蔵野の落ち葉堆肥農法)」を体験する場を提供することで三芳町の魅力を感じて味わうことができる場とします。

基本方針との整合	導入機能	導入施設	利用ニーズ調査					
			三芳の農と食	つながる・広がる	WEB	子育て	三芳PA	農業者
●	地域振興機能	研修室					■	■
		農のミュージアム			■	■		■
		インビテーションセンター	■		■			■
		研究拠点(産学融合拠点)				■		■
	子育て支援機能	24時間ベビーコーナー		●	■	■		■
キッズスペース				■			■	
●	飲食機能	農家レストラン	■		■	■	■	■
	情報発信機能	情報発信施設	■		■	■	■	■
		休憩機能	トイレ	■		■	■	■
			コミュニティスペース(無料休憩所)	■		■		
●	物販・アンテナショップ機能	農産物直売所・水産物販売所	■		■	■	■	■
		アンテナショップ						
●	農業・里山体験機能	体験農園	■		■	■	■	■
		雑木林						■
	レクリエーション機能	芝生広場			■	■		
		大型遊具			■	■		
		せせらぎ	■		■	■		
		屋根あり休憩所	■		■	■		■
		展望台			■	■		■
	交通結節機能	バス停留所	■			■		■
		防災機能	防災倉庫	■				
	防災用井戸		■					■
	非常用電源		■					■
—	その他	・駐車場						
		・調整池						
		・サービスヤード						
		・供用部分						

2. 導入機能について

2-2. 拠点に必要なとされる導入機能と想定規模について（建物）【別紙資料1 導入施設の面積根拠 参照】

導入機能	導入施設	施設の概要	面積(m ²)	面積の根拠【別紙資料1参照】
地域振興機能 ★	① 研修室	<ul style="list-style-type: none"> 「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を学んだり、地域の活動となる研修室 30人程度の研修室を想定 パーテーションを利用し分割可能 	約 60	「道の駅南えちぜん山海里」研修室（約60m ² で30人収容可能）参考
	② 農のミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> 世界農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」を学べる没入型デジタル環境を用いたミュージアム 約20m²(8~15人収容可能※ベンチ使用によって収容人数が異なる)のシアタールームを想定 	約 300	「道の駅 白山文化の里 清流長良川あゆパーク」の多面シアターの面積を参考 「道の駅 とみうら」のギャラリーの面積を参考
	③ インビテーションセンター	<ul style="list-style-type: none"> みよし野ガーデン里山探訪、三芳町の農産物の紹介や日本・世界農業遺産登録地等の観光・地域情報等を紹介し三芳町の魅力と出会うきっかけとなるギャラリー 約280m²のギャラリーを想定 		
	④ 研究拠点(産学融合拠点)	<ul style="list-style-type: none"> 周辺などと連携する産学融合拠点 産学融合を通じた農の価値の創造を目指す(商品開発など) 	約 60	—
子育て支援機能 ★	⑤ 24時間ベビーコーナー	<ul style="list-style-type: none"> 24時間利用可能なベビーコーナー（ミルク販売機など） おむつ台と授乳室を分離（別室）として配置 	約 30	「道の駅うきは」のベビーコーナーを参考
	⑥ キッズスペース	<ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年までの子どもと安心して利用できる空間 隣接する「みよしの子どもさと(芝生広場、遊具広場)」も含め長時間滞在しても飽きの来ない遊びを提供 	約 250	「道の駅南えちぜん山海里」のキッズスペースを参考
飲食機能 ★	⑦ 農家レストラン	<ul style="list-style-type: none"> 町の産物等を使った料理の提供 日本・世界農業遺産登録地等の地場産品を使った料理の提供 	約 300	<ul style="list-style-type: none"> 「設計要領第六集建築施設編（東・中・西日本高速道路株式会社、令和5年7月）」より設定 ただし、飲食機能は埼玉県内道の駅における類似規模を考慮し設定
情報発信機能 ★	⑧ 情報発信施設	<ul style="list-style-type: none"> ベンチやテーブルの設置 周辺道路や高速道路情報はもちろん防災拠点として災害情報等を24時間発信（多言語対応） 	約 150	
休憩機能 ★	⑨ トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 道路利用者をはじめ道の駅を訪れた誰もが24時間利用可能なトイレ 子育て世代と高齢者や障がい者などが利用しやすいトイレ（ベビーキープ、バリアフリートイレなど） 	約 230	
	⑩ コミュニティスペース（無料休憩所）	<ul style="list-style-type: none"> 多世代が交流でき、だれでも休憩が可能なロビー（電子レンジ、手洗い場など完備） 本などを壁側に配置しちいさなライブラリーを想定 	約 150	
物販・アンテナショップ機能 ★	⑪ 農産物直売所 水産物販売所 アンテナショップ	<ul style="list-style-type: none"> 日常の買い物ができる物販施設 町や周辺地域の産物、土産品等を販売 北陸などの鮮魚、精肉（加工品含む）を販売 三芳町を紹介するアンテナショップ 新規起業の商品などの販売の場を提供 	約 360	<ul style="list-style-type: none"> 「設計要領第六集建築施設編（東・中・西日本高速道路株式会社、令和5年7月）」より設定 農産物・海産物の2種の販売を考慮し、基準の約2倍程度と想定
a.必要面積（①+②+③+④+⑤+⑥+⑦+⑧+⑨+⑩+⑪）			約 1,890	上記の面積の合計
b.想定建物面積(a×1.3)			約 2,500※	通路等を考慮し、必要面積の1.3倍を想定

★拠点に必要な基本機能

★利用ニーズ調査から抽出した機能

※ b 想定建物面積は概数を表記

2. 導入機能について

2-2. 拠点に必要なとされる導入機能と想定規模について（外構）【別紙資料1 導入施設の面積根拠 参照】

導入機能	導入施設	施設の概要	面積(m ²)	面積の根拠【別紙資料1参照】
農業・里山 体験機能 ★	⑫ 体験農園	<ul style="list-style-type: none"> みよし野ガーデン里山探訪の基地形成（オープンファーム） 農を体験できる農園（さつまいもなど） 里山の風景である雑木林エリアに近く自然を感じながら農業を体験できる 一区画を約25m²、80区画を想定 外部体験農園との連携も想定 	約 2,000	「深谷テラス」の体験農園を参考
	⑬ 雑木林 (小)	<ul style="list-style-type: none"> みよし野ガーデン里山探訪の基地形成（オープンフォレスト） イベントなどで苗を植樹しみんなで育てる雑木林 苗木1本高さ30cm～1m、約300～500本の植樹 ※三芳町森林整備計画に準拠 三芳町の植生にあうクヌギ、コナラを中心とした落葉広葉樹を想定 植樹はトラストなどを活用 落ち葉はストックヤードに集め、堆肥として体験農園などの土壌改良に活用 	約 8,000	「緑のトンネル(三芳町上富)」を参考
	⑭ 雑木林 (大)	<ul style="list-style-type: none"> みよし野ガーデン里山探訪の基地形成（オープンフォレスト） 武蔵野の雑木林を再現する雑木林 1本高さ約4m、必要面積約20m²程度 約300本の植樹を想定(6,000m²) 雑木林の整備の過程で発生した木材は、木炭にしサウナに活用 落ち葉はストックヤードに集め、堆肥として体験農園などの土壌改良に活用 		
レクリエー ション 機能 ★	⑮ 芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> 多様な活用となる芝生広場 	約 1,200	開発行為等に伴い設置される公園の設置基準より、計画地の敷地面積（39,000m ² ）の3%と設定(芝生広場) 「道の駅南魚沼」の遊具広場を参考「道の駅せせらぎの里こうら」のせせらぎを参考
	⑯ 大型遊具	<ul style="list-style-type: none"> 無料の遊具 三芳町の景観に調和する大型遊具 インクルーシブ遊具（障がいの有無を問わずみんなが遊べるもの） 		
	⑰ せせらぎ	<ul style="list-style-type: none"> 水遊び場となるせせらぎを想定 		
	⑱ 屋根あり 休憩所	<ul style="list-style-type: none"> 夏場の暑さ対策（屋根、ベンチなど） イベント開催しやすい形態（国内外の世界農業遺産の催事、キッチンカー、マルシェなど） 移動式ステージを配置する 災害時には防災広場として一時避難スペースや仕分けスペースとしても活用することを想定 	約 300	「道の駅果樹公園あしがくぼ」の屋根あり休憩所を参考
	⑲ 温浴施設	<ul style="list-style-type: none"> コンテナ型のサウナ（3ユニット） 男女別シャワー（2ユニット） 誰でも気軽に利用できる足湯（利用人数4人、2基） 	約 550	「SAUNEA浦和」を参考 「福井レインボーライン」の足湯を参考
	⑳ 展望台	<ul style="list-style-type: none"> 三芳町の景観に調和し、江戸時代から続く地割を望み楽しめる展望台を想定 高さ約15～20mを想定 	約 50	「二ノ宮山展望塔」を参考
交通結節機能 ★	㉑ バス停留所	<ul style="list-style-type: none"> 鉄道駅等を結ぶルートを検討しバス停を配置 レンタサイクルステーションを配置 	—	—
防災機能 (案) ★	㉒ 防災倉庫	<ul style="list-style-type: none"> 防災拠点として災害時、避難者の保存用の飲料水・食料、日用生活用品を備蓄する 	約 100	※検討中 防災拠点としての位置づけを整理し 防災機能および施設規模を検討する。
	㉓ 防災用井戸	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の水を確保 	—	
	㉔ 非常用電源	<ul style="list-style-type: none"> 災害時や停電時でも照明を確保し、避難者の安全を確保 	—	
c.想定敷地面積（⑫+⑬+⑭+⑮+⑯+⑰+⑱+⑲+⑳+㉑+㉒+㉓+㉔）			約12,200	

2. 導入機能について

2-2. 拠点に必要とされる導入機能と想定規模について（外構）【別紙資料1 導入施設の面積根拠 参照】

a.b 想定面積【建物】	
導入施設	面積 (㎡)
① 研修室	約 60
② 農のミュージアム	約 300
③ インビテーションセンター	
④ 研究拠点(産学融合拠点)	約 60
⑤ 24時間ベビーコーナー	約 30
⑥ キッズスペース	約 250
⑦ 農家レストラン	約 300
⑧ 情報発信施設	約 150
⑨ トイレ	約 230
⑩ コミュニティスペース (無料休憩所)	約 150
⑪ 農産物直売所・ 水産物販売所 アンテナショップ	約 360
a 合計	約1,890
b 合計×1.3	約2,500※

c 想定面積【敷地】	
導入施設	面積 (㎡)
⑫ 体験農園	約 2,200
⑬ 雑木林 (小)	約 8,000
⑭ 雑木林 (大)	
⑮ 芝生広場	約 1,200
⑯ 大型遊具	
⑰ せせらぎ	
⑱ 屋根あり休憩所	約 300
⑲ 温浴施設	約 550
⑳ 展望台	約 50
㉑ バス停留所	-
㉒ 防災倉庫	約 100
㉓ 防災用井戸	-
㉔ 非常用電源	-
c 合計	約12,200

d 想定面積【その他(敷地)】			
導入施設	施設概要	面積 (㎡)	面積根拠
㉕ 調整池	・貯留容量約3,710t (3.9ha×950m ³ /t) ・一部を多目的利用可能	約 5,000	—
㉖ 駐車場	24時間利用可能な駐車場 (小型、大型、身体障がい者、EV)	約 6,000※	「道路設計要領設計編 (R4.7 国土交通省中部地方整備局)」より設定。 (小型159台、大型17台、身体障がい者3台、EV充電1台、車路等)
㉗ サービスヤード	農産物の搬入用等	約 1,900	—
㉘ 供用部分	・外周樹林 ・付け替え道路 ・進入道路等 ※道の駅登録要件として駐車場とトイレを結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化必須	約 11,400	—
d 合計		約 24,300	

※概数を表記

a b 想定面積【建物】	c 想定面積【敷地】	d 想定面積【その他】	総面積
約 2,500 m ²	約 12,200 m ²	約 24,300 m ²	約 39,000 m ²

3. 配置計画図（案）について

3-1. 前提条件

■ ゾーニング・動線計画の基本的な考え方

- ① 「武蔵野の雑木林」を活かした空間演出
 - ・江戸時代の開拓の地割景観が残る農地、雑木林のなかに立地する強みを活かした空間演出を行う。
- ② 周辺施設や機能連携の効果が高まる施設配置
 - ・周辺施設との機能連携を重視した施設配置とする。
 - ・また、ターゲットのひとつとしている「観光・長距離利用」に魅力を感じてもらえるように子育て支援機能を重視する。
- ③ 利用者にとっての利便性・安全性を確保する動線計画
 - ・利用者にとっての利便性・安全性を確保する配置とする。

〔参考〕ターゲット設定（案）（第2回検討委員会資料より）

ターゲット①：地域住民・周辺住民

- ・三芳町一人当たりの都市公園整備面積3.87㎡/人と少ない状況。「人々の憩いやレクリエーション活動の場」を整備することで生きがいとなる場を創出する。
- ・「新鮮さ」、「安さ」、「地元産」、「品揃え」などへのニーズが高いため、リピーターとなれば一定の市場規模となり得る。
- ・地域住民が集まることで地域活性化が期待できる。

ターゲット②：観光・長距離利用

- ・交通利便がよく首都圏に近いこの地の特性を活かして、この拠点に来ることを目的とした利用者を見込む。
- ・ファミリー層への訴求力を高めることで、この拠点においてリピーターの獲得を目指す。
- ・子育て世代を支援し呼び込む魅力のある施設によって「人が人を呼ぶ」魅力的な集客力向上を目指す。



■ 施設配置の前提条件

上記の基本的な考え方を踏まえつつ、計画地における施設配置条件を以下のとおり整理する。

建物エリア

三芳PAの賑わいを受けつつ、子どもと子育て世代を呼び込むために芝生広場と隣接する配置とする。〈賑わいの創出〉

芝生広場（レクリエーション）エリア

計画地の中央に位置し、各エリアをつなぐことでにぎわいや交流を作り出す配置とする。〈賑わいの創出〉

雑木林エリア

建物エリアより西側へ雑木林を配置することにより背後地にある短冊状の畑とつながり、三富の地割を感じる景観とする。〈景観形成〉

雑木林エリア 農業エリア

雑木林を中心とした里山の風景（オープンフォレスト）と「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が息づく農業（オープンファーム）が連携し、拠点も周辺地域も活性化が波及していく配置とする。〈機能連携〉



調整池

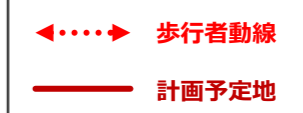
地盤高や排水ルート等を考慮した配置とする。

展望台

三富新田を望むことができる配置とする。

道路休憩施設エリア

- ・町道上富69号線に接続する配置とする。
- ・建物エリアや芝生広場エリアからの距離を短くし負担を感じない配置とする。〈利用者の利便性〉

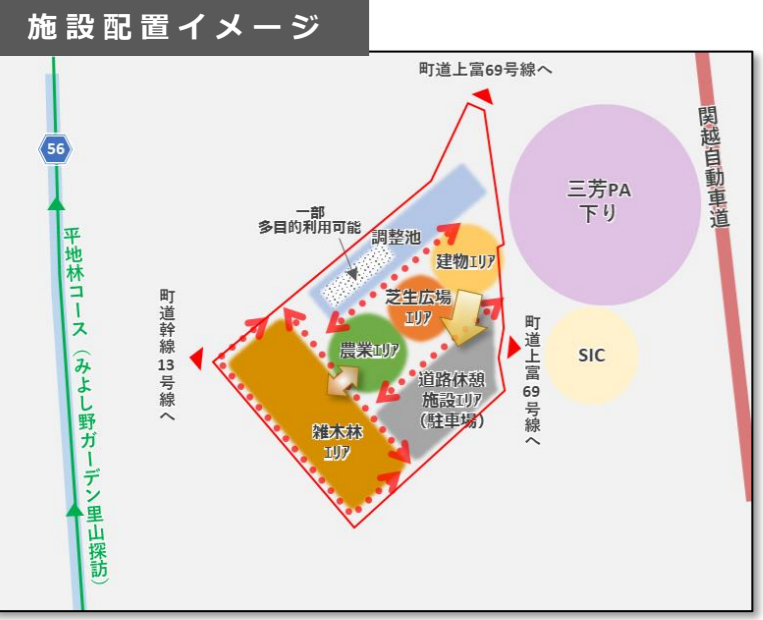
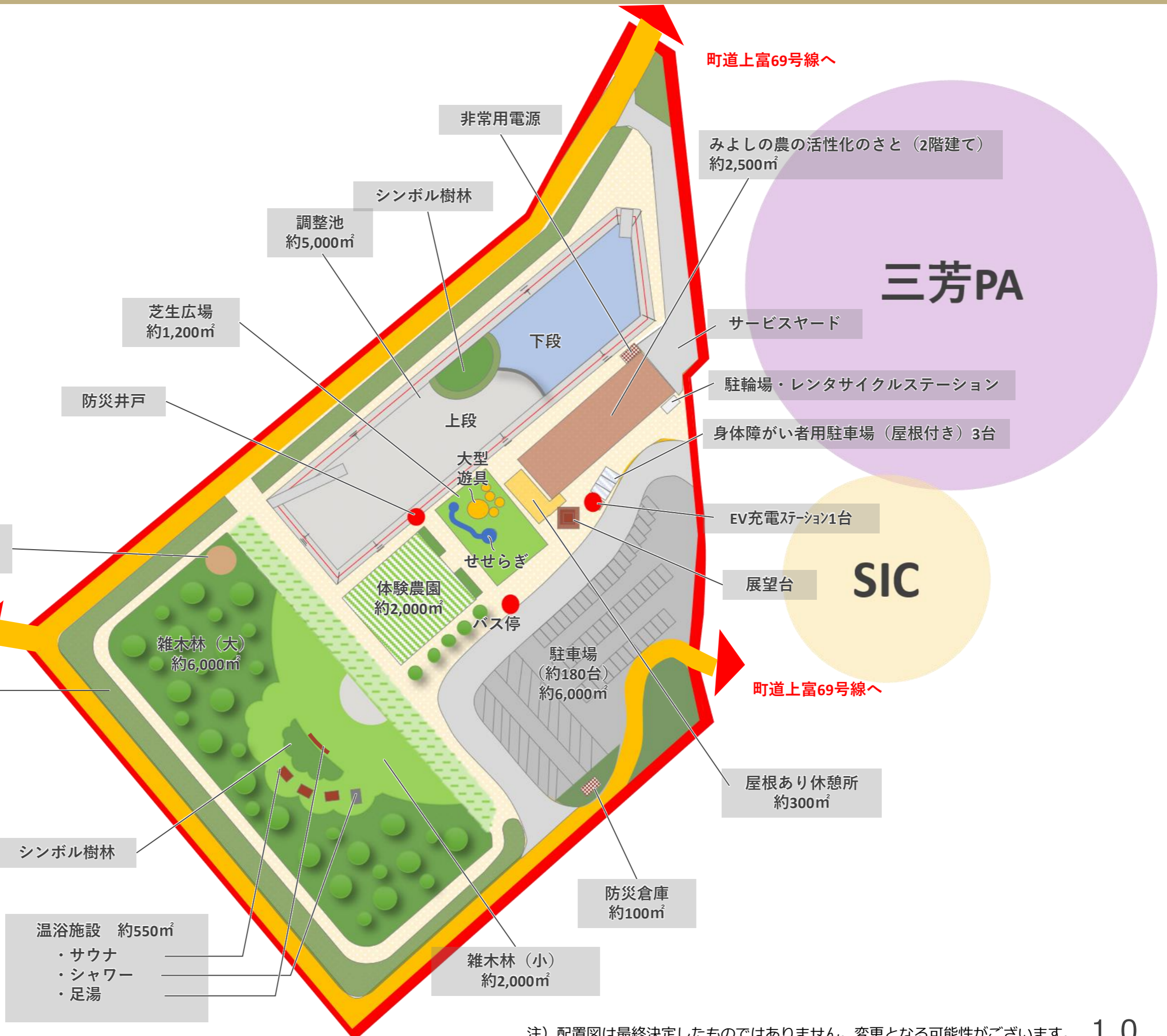


3. 配置計画図 (案) について

3-2. 配置計画図 (案)

※車両動線計画は別途検討
 ※駐車ます等は出入口を決定後詳細計画

みよしの農の活性化のさと		
導入機能	導入施設	面積
地域振興機能	① 研修室	約 60 m ²
	② 農のミュージアム	約 300 m ²
	③ インビテーションセンター	
	④ 研究拠点(産学融合拠点)	約 60 m ²
子育て支援機能	⑤ 24時間ベビーコーナー	約 30 m ²
	⑥ キッズスペース	約 250 m ²
飲食機能	⑦ 農家レストラン	約 300 m ²
情報発信機能	⑧ 情報発信施設	約 150 m ²
休憩機能	⑨ トイレ	約 230 m ²
	⑩ コミュニティスペース (無料休憩所)	約 150 m ²
物販・アンテナショップ機能	⑪ 農産物直売所・水産物販売所 アンテナショップ	約 360 m ²



注) 配置図は最終決定したものではありません。変更となる可能性がございます。 10

3. 配置計画図 (案) について

3-2. 配置計画図 (案)



雑木林を眺めながら足湯やサウナが楽しめる。また、シャワーを配置する。

※車両動線計画は別途検討
※駐車ます等は出入口を決定後詳細計画



農のミュージアム

「武蔵野の落ち葉堆肥農法」をデジタル技術を活用し学べるミュージアムを設置する。



屋根あり休憩所

イベントや休憩等の多目的活用ができる。可動式のベンチやテーブルを配置する。



農家レストラン

三芳の農と食、北陸・新潟の産直市場からもたらすレストランを設置する。



情報発信施設

道路利用者に向けた交通情報や災害情報等を発信する施設を配置する。



キッズスペース

子育てを支援し、子どもと子育て世代を呼び込むすべての人にやさしい訪れたい拠点を設置する。



大型遊具

子育て世代を呼び込み賑わいを創出する三芳町の景観にあう大型遊具を配置する。



コミュニティスペース

多様な世代が憩い交流できるスペースを設置する。壁に小さなライブラリーを配置する。



展望台

景観と調和し三富新田を望める展望台を配置する。



体験農園

さつまいも等のみよし野菜をつくり、収穫することができる体験農園。



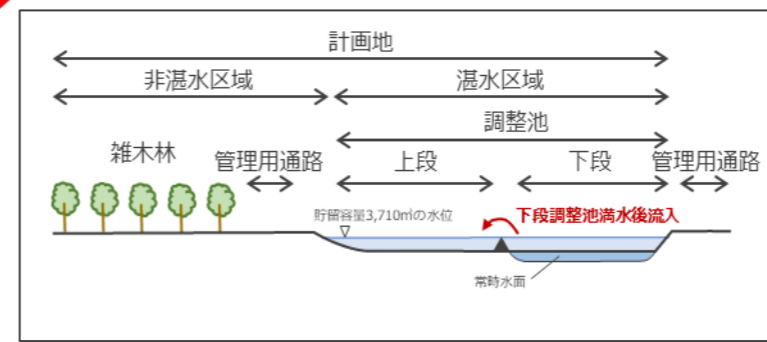
雑木林 (大)

武蔵野の雑木林を再現する。



雑木林 (小)

周辺町民が中心となって管理を行う武蔵野の雑木林。



調整池 (上下段) の断面図イメージ



外周樹林のイメージ



芝生広場

町民の協力を得て、マルシェなどのイベントを催すこともできる芝生広場。通常は多目的に利用できる

3. 配置計画図 (案) について

3-3. 配置施設イメージ



インビテーションセンターのイメージ ■福井県年縞博物館

- ・ 地域（三方五湖）の歴史と世界の歴史を比較して学ぶことができる。
- ・ 建築コストを抑えてかつ風景に溶け込む建物を設置



農と食のアンテナショップのイメージ ■新潟市のKITAMAE・新潟直送計画

- ・ 新潟県の物販を直営店や通販で販売。
- ・ 鮮魚の販売も可能とのこと。



産直施設のイメージ ■和歌山県田辺市のよってって

- ・ 地場産品を安く提供する。
- ・ 周辺農家との連携を行っている。



4. 今後のスケジュール

